

55 A 4
(53 E 2)

特 許 庁
実 用 新 案 公 報

実用新案出願公告
昭31-677

公告 昭 31.1.20 出願 昭 29.5.24 実願 昭 29-16896

出願人 考案者 藤 本 清 三 郎 布 施 市 高 井 田 中 3 の も
代理人 弁理士 井 元 勝 利

(全1頁)

ゴ ム 管 の 嵌 合 端 緊 締 具

図 面 の 略 解

第1図は本案品の側面図、第2図は正面図、第3図は縦断側面図、第4図は一部の斜断面図、第5図は嵌合筒の斜断面図である。

実用新案の性質、作用及効果の要領

本案は一端の上面に螺杆6の嵌合筒4を固定し又他半に横溝孔9を列穿した金属带状結具に於て嵌合筒4の両端板11に縦向き欠除部12を設け、之に螺杆6の両端軸部7を横架すると共に螺杆6に相対する带状板1の中央に、長手方向に凹面10を形成したものである。

2は带状板1の下側に固着した取付板で、その両側縁3と嵌合筒4の両側縁とを附着する、5は嵌合筒4の下側と带状板1の上面間の間隙、8は螺杆6の摘みである。

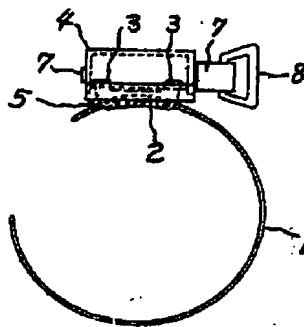
本案は上記の如く螺杆6に相対する带状板1の

中央に、長手方向に凹面10を形成したから、間隙5を可及的狭くでき、螺杆6の螺糸は、横溝孔9に深く、確実に螺合し、強く締め得られる効果があり、且螺杆6の両端軸部7を、嵌合筒4の両端板11の縦向き欠除部12に嵌めた故、螺杆6は脱離して紛失の虞れなく、又廻転軽快で、しかも傾動ができて、带状板1の他端を喰え込み易くなる利益がある。

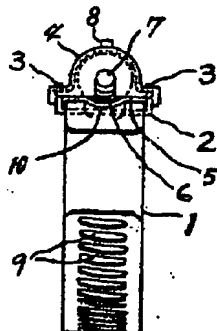
登 録 請 求 の 範 囲

図面に示すように、一端の上面に螺杆6の嵌合筒4を固定し、又他半に横溝孔9を列穿した金属带状結具に於て、嵌合筒4の両端板11に、縦向き欠除部12を設け、之に螺杆6の両端軸部7を横架すると共に、螺杆6に相対する带状板1の中央に長手方向に、凹面10を形成したゴム管の嵌合端緊締具の構造。

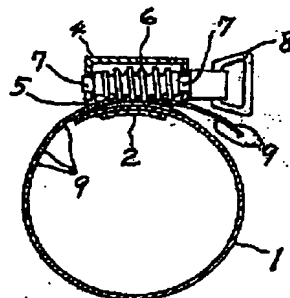
第1図



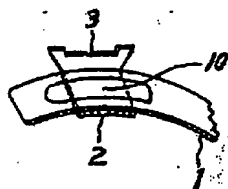
第2図



第3図



第4図



第5図

